

Vol. 187  
October  
2008

## トピックス

### 関係機関との防災協力推進

「南アジア地域における地震防災対策計画（ERRP）」第1回リージョナル・ワークショップをネパール・カトマンズで開催

### ADRC客員研究員 (ASEAN-GLIDEプロジェクト担当) レポート

プラソン・タマパラ研究員（タイ）

## お知らせ

アジア防災会議2008

### Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.or.jp  
http://www.adrc.or.jp

© ADRC 2008

### ● 関係機関との防災協力推進

## 「南アジア地域における地震防災対策計画（ERRP）」第1回リージョナル・ワークショップをネパール・カトマンズで開催

アジア防災センター（ADRC）は、2008年8月10日～12日の間、ネパールのカトマンズにおいて、南アジア地域における地震防災対策計画（ERRP: Earthquake Risk Reduction and Recovery Preparedness）での「地域プログラム」のキックオフとなる第1回リージョナル・ワークショップを、ネパール政府、国連開発計画（UNDP）等との共催で開催しました。



【開会式】

南アジア地域では、自然災害、とりわけ地震が大きな被害をもたらしており、域内各国の開発への努力に大きな損失を与えています。ERRPは、インド、ネパール、パキスタン、バングラデシュ及びブータンの5カ国を対象に、各国が加盟している南アジア地域協力連合（SARRC）の防災分野での能力強化も視野に入れ、建物の耐震化等の促進により、地震による被害の軽減と迅速なよりよい復興を図ろうとするもので、日本政府の防災・災害復興支援無償資金協力を得て、UNDPが実施するものです。事業期間は、2008年5月から2年間を予定しています。

ERRPは大きく、情報共有や南南協力の推進等を目的として対象5カ国を横断する「地域プログラム」と、各国の個別のニーズに対応する「各国プログラム」に分かれており、ADRCは、これら双方のプロジェクトについて、地震対策に豊富な知見を有する日本の専門家派遣等によって支援することとしています。

今回のワークショップは、対象5カ国から総勢約200名が参加して開催されました。

初日は、まず、ネパール政府高官、UNDPリージョナルコーディネーター、駐パキスタン日本国大使等が出席した開会式において、ADRCの鈴木弘二所長が挨拶し、ADRCとして本件ERRPの成功に向けてできる限りの支援を行っていく旨、また、防災分野におけるコミュニティ防災の重要性について述べました。その後、ERRP地域調整官による事業の概要説明、参加5カ国の代表者による各国プログラムの取組状況の説明がありました。

2日目は、午前中、知識共有セッションが行われ、日本から専門家として参加した（独）建築研究所の榎府龍雄国際協力審議役が「ERRPにおける日本の知見と経験の活用について」、また、ADRCの大堀正人主任研

## 続き

究員が、「阪神・淡路大震災の経験と教訓」及び「建築における総合的品質管理（TQM）の重要性：海外プロジェクトからの教訓」と題するプレゼンテーションをそれぞれ行いました。午後の戦略セッションでは、域内連携の重要性とその取組方策等について議論がなされ、権府国際協力審議役より「日本からの技術協力提案」と題して、日本として可能な技術協力の提案がなされました。その後、これまでの議論を踏まえて、各国プログラムのレビューが行われ、プログラムは終了しました。



【プレゼンテーションを行う大堀主任研究員】

3日目は、午前中、カドマンズに隣接するラリトブル市を訪問し、市の防災体制のヒヤリングを実施するとともに、耐震性の観点から現存する建築物や建築中の民家等を視察し、ワークショップは終了しました。

ERRPのリージョナル・ワークショップに関しては、今後、事業の進捗に合わせ3回程度の開催を予定しています。また、各国プログラムについても、各国からの支援要請事項を踏まえ、ADRCとして可能な支援を順次実施していく計画です。ADRCとしては、今後とも、地震対策に豊富な知見を有する日本の専門家派遣による技術支援等によりERRPの実施を支援し、南アジア地域の防災力向上に貢献していきたいと考えています。

## ● ADRC客員研究員(ASEAN-GLIDEプロジェクト担当)レポート プラソン・タマパラ研究員（タイ）

私はプラソン・タマパラと申します。タイ内務省防災局（DDPM）にある情報技術センターの科学者です。2008年9～11月まで、ASEAN-GLIDEプロジェクトの客員研究員としてADRCで働いています。

DDPMは、タイ国における災害管理を担う部局であり、情報提供や地域住民へのトレーニングなどを通じて、自然災害や人災を防ぎ、軽減する役割を担っています。

日本での滞在期間中、GLIDEのみならず、被災地域の情報を把握し、災害をモニタリングできるリモートセンシングやGIS（地理情報システム）についても学びたいと思っています。



自然災害は、過去10年間に増加傾向にあり、人々へ深刻な被害を及ぼしています。災害が起こっているのはわずかな国だけではありません。世界中でこのような深刻な状況に直面しています。タイでは、洪水、干ばつ、地すべり、林野火災、津波などの自然災害が発生します。これらの災害は、物質的な損失をもたらすのみならず、生き残った被災者たちの生活までも脅かします。被害を受けやすい地域での防災活動は、命や財産の損失を軽減するために、大きな助けとなります。

日本は、モニタリング、警報、予防などの災害管理システムが優れた国です。私は、このよ

## 続き

うな日本の素晴らしい知識や手法から学び、タイ国の防災力の向上、そして人々の生活向上を目指します。

また、ADRCは防災機関として世界的に知られています。それは災害管理といった面だけでなく、情報システムの面においても優れています。本研修で、GLIDEシステムで使用されているプロトコルについて学ぶことにより、タイ国の災害データベースシステムを改良させることができると考えています。その結果、データベースシステムが向上するだけでなく、他国からもアクセスできる世界的な災害情報システムとして利用できるようになるでしょう。

皆さん、3ヶ月間よろしくお願ひします。

## ● お知らせ

### アジア防災会議2008

インドネシア共和国政府および日本国政府、国連国際防災戦略事務局（UN/ISDR）、ADRCの主催により、アジア防災会議2008（ACDR2008）が、2008年11月12日から14日にかけて、インドネシア共和国のバリ島で開催されます。この会議では、ADRCメンバー国の防災担当実務者が一同に介し、UN/ISDR等の国連・国際機関と連携しつつ、兵庫行動枠組（HFA）の具体化を推進するため、各国における取組状況を報告し、課題の検証および今後の取組に向けた方向性の検討を行います。

詳細につきましては、ADRCのHP（[http://www.adrc.or.jp/acdr2008bali/index\\_j.html](http://www.adrc.or.jp/acdr2008bali/index_j.html)）をご覧ください。

## 問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は [editor@adrc.or.jp](mailto:editor@adrc.or.jp) までEメールをお寄せください。